

岩手郡医報

平成 6 年 6 月 No45

編集 発行

岩手郡医師会

題字 雫石町高橋孝先生



チャグチャグ馬コ

岩手、盛岡の初夏の風物詩となっている 6 月 15 日は、雨の降らない日、「チャグチャグ馬コ」の日として例年開催されてきたが、去年は 29 年ぶりの雨にたたられ、今年も前日まで県北部には大雨を降らせる不安定な天気であったが、この日は強い日差しのもとさわやかな青空が広がり、戦後最高の 104 頭の馬コの参加が予定されていたが、当日は昨年より 3 頭少ない 96 頭の装束馬が参集した。

鼻かくし、首よろい、胸がい、腹あて、鳴り輪、小鈴など南部藩伝統の「小荷駄装束」で全身を覆い、鈴とひづめ音も軽やかに、滝沢村蒼前神社より盛岡市中心部を通り、中の橋の河原で一休みしたあと、盛岡八幡宮までの行程約 15 キロ、約 5 時間にわたって行進した。

(M. S 記)

目次

チャグチャグ馬コ	1
岩手郡医師会通常総会 会長挨拶	2～3
[報告] 学校医部	3～4
広報・健康教育、いわて医報編集委員合同協議会	4～5
労災部会	5
監査報告書	5
平成 5 年度一般会計決算書	6
平成 5 年度休祭日当番医決算書	7
平成 5 年度特別会計決算書	7

[特別講演] 霊峰への誘い 芳門申菟氏	8
[学術講演] 腎臓病について 谷口繁教授	9
第 1 回岩手郡医師会ゴルフ同好会コンペ	10
新入会員	11
[学術] 岩手町における大腸集団検診の現況	12～13
おらほの先生 玉山村 八角病院の巻	14
[随想] 貴方のウンチは水に浮かぶ? 高橋孝	15
[随想] 玉川温泉の一日 嶋 信	16
岩手郡医師会理事会・役員会	17～18
編集後記	18

岩手郡医師会通常総会

日 時：平成6年6月11日

場 所：ホテル・アネックス

1 開 会 岩手郡医師会副会長

高 橋 孝

2 会長挨拶 岩手郡医師会会長

高 橋 牧之介

3 資格確認 (高橋会長・及川総務担当理事)

4 議 題

1) 報告事項

(1) 各部会担当からの報告

1 学校医 (上 原) 2 産業医 (八角)

3 保 険 (佐々木) 4 労 災 (篠村)

5 地域医療 (及川) 6 勤務医 (上田)

7 代議員会 (根本) 8 医師信金 (秋浜)

9 福祉・広報・生涯教育 (高橋 (牧))

(2) その他

2) 議 事

(1) 監事報告 (高橋克郎)

(2) 平成5年度岩手郡医師会一般会計決算書の承認について (及川)

(3) 平成5年度岩手郡医師会休祭日当番医決算書の承認について

(4) 平成5年度岩手郡医師会特別会計決算書の承認について

(5) その他

5 閉 会 岩手郡医師会副会長

上 田 靖 彦

6 講 演 会

1) 特別講演「霊峰への誘い」郷土史研究家 芳門申龍

座長 郡医師会長 高橋牧之介

2) 学術講演 「腎臓病について」

岩手医大救急センター (5:30~6:15)

教授 谷 口 繁

座長 郡医師会副会長 西島康之

7 懇 親 会

〈会 長 挨 拶〉

本日は平成6年度岩手郡医師会通常総会です。先生方には何かとお忙しい中をお集まりくださいまして有り難うございます。

混迷する政局・経済の低迷する中で、平成5年度の当医師会会務は何ら支障なく円滑に推移しました。会員の皆様のご理解と協力の賜物であります。

政局がどんなに混乱しても、われわれ医師会は地域住民の保健・医療・福祉を守っていかなくてはなりません。今年度も医師会活動の中で、行政との対応や地域住民の健康管理そして会員相互の親睦と生涯教育と、多岐にわたる職務に専念しなければなりません。よろしくお願いします。

暫定予算が健康保険法改正をふくめ衆議院を通過しました。参議院で審議が順調に進めば、会期内の6月29日までには成立するでしょう。これにより10月診療報酬改定が確定となった。この改正案に対しては、付帯決議の提案も想定されており、付き添い看護介護の完全解消に向けた取り組みなどが盛り込まれていると思います。

平成6年度の予算成立後、衆議院の解散総選挙がささやかれている。このような状況に対処するためには、医師連盟の意志統一と団結が不可欠であります。

今後見込まれる政局に対応するため、各都道府県医師連盟の状況のアンケート調査を行い、これにより日医連はいかなる政局

にも対応できる備えの構築をして対処する。

4月1日に診療報酬が改定されてから2カ月チョット経過した。改定の度毎に医療担当者側から不満の声は起こるが、今回もマイナスかゼロ改定に等しい。

一般的にいつて、診療所は患者の大病院指向による受診率の低下により、僅かな診療報酬の引き上げにさえも追いつけず、かろうじて現状維持を保っているような状況であり、病院は看護婦等の待遇改善による人件費、検体検査の包括化、薬価差益の低下による収入減により、赤字に転落する医療機関が急増しているという実態もある。

既に平成4年改定から始まっている高齢社会に対応するための医療法改正と連動する点数表の設定は、今後も意図的に誘導的な診療報酬によって、医療体系そのものを変えようとしていることは明白であり、この流れに如何に乗るかが、効率的な医療経営の進むべき方向なのではないかと思えます。

日本医師会では、全国民がかかりつけ医を持とうという表現をしている通り、かかりつけ医の推進に力をいれています。これに厚生省は補助金等をバックアップし平成5年から「かかりつけ医推進モデル事業」を実施しております。実施地区は、平成5年度は全国で14ヶ所で東北は岩手・宮城・秋田の3県で、岩手の実施医師会は盛岡

市・岩手郡・紫波郡の盛岡医療圏です。

今後開業医に求められることは、プライマリ・ケアを担当する「かかりつけ医」として地域住民の健康管理から疾病治療、リハビリテーションまでをカバーしながらも、もし患者の容体が変化したりフォローできないときは、すぐ二次医療を担当する病院に紹介し、効率的に医療が提供できるようにする役割を分担することです。

岩手県では、県民の誰もがいつでも心臓マッサージや人工呼吸などの救命措置ができるよう、本年から3年計画で、「県民自身による心肺蘇生法」普及事業として展開することになり、県内9つの広域行政地区に推進会議を設置して、県民運動を繰り広げることになりました。盛岡地区推進会議は5月18日に行われ、6月8日に指導者養成講習会が開催されました。岩手地区は7月に推進会議が予定されています。

さらに、医師需給の問題をどう考えるかという話題提供をしたが、内容は省略する。

医師会は情報量・仕事量も増え大変だと思いますが、心を引き締め与えられた仕事に専念・協力していかなければならないと思いますので、今期も会員各位の協力とご支援をいただきながら、任務をまっとうしてまいりますので、よろしくお願い致します。

報 告

〈学校医部〉 担当 上 原 充 郎

平成6年度岩手郡医師会管内教育委員会検査検診予定

○ 滝沢村教育委員会

寄生虫検査(糞虫) 7月 小全員

尿検査 5月 小全員、中2、3

心臓検診(E,P) 9月 小1、中1

学童成人病予防健診 6月 中1

貧血検査(Hb,RBC) 6月 中2、3

○ 葛巻町教育委員会

尿検査 6月 小中全員

心臓検診(E,P,BD) 9月 小1、中1

貧血検査(Hb,Ht,RBC) 11月 中全員

○ 雫石町教育委員会

寄生虫検査(焼虫) 9月 小全員
 尿検査 6月 小1, 2, 3, 5, 6, 中2, 3
 心臓検診(E,P) 11月 小1, 5, 6, 中全員
 脊柱側弯検診 9月 小5, 6, 中1
 学童成人病予防健診 7月 小4, 中1
 貧血検査(Hb,Ht,RBC) 6月 小5, 6, 中2, 3

○ 西根町教育委員会

寄生虫検査(焼虫) 4月 小全員(便:小1, 4)
 心臓検診(E,P) 12月 小1, 4, 中1
 脊柱側弯検診 1月 小5, 中1
 学童成人病予防健診 10月 中1
 貧血検査(Hb,Ht) 10月 小5, 6, 中2, 3

○ 玉山村教育委員会

寄生虫検査(焼虫) 7月 幼小中全員
 尿検査 6月 幼小中全員
 脊柱側弯検診 11月 小5, 中1,
 前年度有所見者

学童成人病予防健診 6月 小4, 中1,
 前年度有所見者
 貧血検査(Hb,Ht,RBC) 6月 小4, 5, 6, 中全員

○ 岩手町教育委員会

寄生虫検査(焼虫) 11月 小中全員
 学童成人病予防健診 9月 小4, 中1
 貧血検査(Hb,Ht) 9月 小5, 6, 中2, 3

○ 松尾村教育委員会

寄生虫検査(焼虫) 7月 小全員, 中1
 尿検査 5月 小中全員
 学童成人病予防健診 7月 小4, 前年度要経観者

○ 安代町教育委員会

寄生虫検査(焼虫) 9月 小中全員
 心臓病検診(E,P,BD) 11月 小1, 5, 中1
 学童成人病予防健診 6月 小4, 中1
 貧血検査(Hb,Ht,RBC) 6月 小5, 6, 中2, 3

〈平成6年度広報・健康教育委員、いわて医報編集委員合同協議会〉

日 時 平成6年6月11日(土) 午後3時~5時
 場 所 岩手県医師会館 視聴覚室

担 当 嶋 信

次 第

- 1 開 会
- 2 会長挨拶
- 3 委員長、副委員長の選出
- 4 報 告
 - (1) 平成5年度広報・健康教育の事業状況について
 - (2) 平成6年度第1回広報・健康教育担当理事打合せについて
 - (3) その他
- 5 協 議
 - (1) 平成6年度広報・健康教育の事業計画実施について
 - (2) その他
- 6 閉 会

平成6年度広報・健康教育委員、いわて医報編集委員合同協議会は、各郡市の担当委員14名、いわて医報編集委員9名、その他県医師会担当委員を含めて6月11日(土)県医師会館において開催された。

担当委員長・副委員長にはそれぞれ県医師会副会長佐藤進先生が委員長に、医報編集委員長鷹薮研一先生が副委員長に選出された。

そのあと鷹薮先生の司会のもと平成5年度の事業状況の概要説明があったあと、平成6年度広報健康教育の主な事業として、県民健康講座では「くらしと健康」がメインテーマとして取り上げられ、サブテーマとして、本年度は「心肺蘇生法」を一講座カリキュラム

に入れてほしいとのことであった。各保健所毎この問題について指導者講習会も開催されている所でもある。そのあと、各郡市医師会担当者より質疑応答があり、最後に遅れて参加した石川県医学会長が県医師会の中で広報と

〈労災部会〉

担当 篠 村 達 雅

労災診療費算定基準の概要

初診料は3,000円から3,130円に引き上げられた。その一方で、従来の初診料特別加算が全面的に廃止され、替わりに救急医療管理加算が新設された。再診料は1,200円だったのが1,270円に引き上げられた。

今回の改定で最も注意が必要なのが、外来管理加算に関する特例。健保点数では、処置、検査、手術などをおこなった場合、外来管理加算は算定できないが、平成4年の労災の改定では、これらの労災点数が外来管理加算の点数(42点)を下回った場合、同加算が算定できるとされていた。

しかし、今年4月の健保点数の改定では、

健康教育を合体した機構改革を説明したあと、会員諸先生にはぜひ「いわて医報」に目を通していただき、大いに医師会活動に積極的に参加していただきたいと訴えていた。

最も低い点数だった創傷処置・術後創傷処置(1指～3指の範囲)が20点から24点へと引き上げられたため、労災点数では48点となり(24点×2)、外来管理加算が算定できなくなってしまう。この不合理を是正するため、同処置の点数に限って従来どおり40点(20点×2)とし、外来管理加算が算定できるようになった。

今回の改正では、患者が事業所に復帰する際、労災指定医からその事業所の産業医療への情報提供として2,400円が新設された。

なお、健保で基準寝具が廃止されたことに準拠して、その特例も廃止となった。(平成6年5月1日より施行)

監 査 報 告 書

平成5年度社団法人岩手郡医師会決算書について

- 1 平成5年度岩手郡医師会一般会計決算書の承認について
- 2 平成5年度岩手郡医師会休祭日当番医決算書の承認について
- 3 平成5年度岩手郡医師会特別会計決算書の承認について

上記決算については慎重に監査いたしましたところ、その収支は適性妥当なものと認めます。

平成6年5月27日

社団法人 岩手郡医師会

会 長 高 橋 牧之介 様

社団法人 岩手郡医師会

監 事 和 田 栄 吉 ㊞
高 橋 克 郎 ㊞

平成5年度・一般会計決算書

自 平成5年4月1日
至 平成6年3月31日

社団法人岩手郡医師会

《1》収入の部

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
	円	円	
繰越金	2,128,000	4,598,816	前年度より繰越
会費	4,370,000	4,298,000	A会員 95,000×38人=3,610,000円 B会員 1期分 12,000×19人= 228,000円 2期分 12,000×20人= 240,000円 3期分 11,000×20人= 220,000円
補助金	85,000	508,000	県民健康講座 425,000円 地域医療 28,000円 学校医 55,000円
雑収入	67,000	89,088	預金利息・総会参加費他
合 計	6,650,000	9,493,904	

《2》支出の部

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
	円	円	
[事業費]	(5,830,000)	(3,096,461)	
会議費	2,080,000	902,896	総会(2回) 219,893円 役員会(3回) 396,835円 総務会(6回) 286,168円
生涯教育費	950,000	200,120	医学講習会 200,120円
地域保健	400,000	583,244	県民健康講座 583,244円
広報発行費	600,000	395,990	印刷費(5回) 347,110円 発送費(5回) 45,275円 雑費 3,605円
旅費	350,000	598,560	
交際費	1,000,000	196,361	
慶弔見舞金	200,000	30,000	
広告費	100,000	124,290	
雑費	100,000	15,000	
予備費	50,000	50,000	
[事務費]	(820,000)	(743,110)	
事務費	820,000	743,110	事務連絡費 40,228円 通信費 157,518円 消耗品費 109,082円 リース料 221,244円 事務処理費 120,000円 雑費 95,038円
合 計	6,650,000	3,839,571	
次期繰越金	—	5,654,333	収入金額 9,493,904円 - 支出金額 3,839,571円

平成5年度・休祭日当番医決算書

自 平成5年4月1日
至 平成6年3月31日

社団法人岩手郡医師会

〈1〉収入の部

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
	円	円	
繰 越 金	602,000	6,017,556	前年度より繰越
補 助 金	3,699,000	3,777,000	
雑 収 入	9,000	5,779	預金利息
合 計	4,310,000	9,800,335	

〈2〉支出の部

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
	円	円	
報 償 費	3,310,000	2,611,345	健康教育費 1,200,000円 県医野球大会 425,960円 県医ゴルフ大会 51,321円 救急対策費 600,850円 厚生対策費 120,734円 合同研修費 212,480円
需 要 費	350,000	201,334	会 議 費 201,334円
旅 費	350,000	100,000	
役 務	100,000	0	
費 備 費	200,000	0	
合 計	4,310,000	2,912,679	
次期繰越金	—	6,887,656	収入金額 9,800,335円 - 支出金額 2,912,679円

平成5年度・特別会計決算書

自 平成5年4月1日
至 平成6年3月31日

社団法人岩手郡医師会

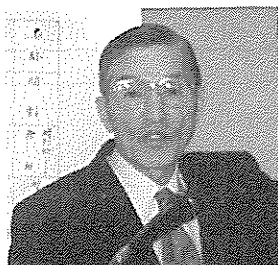
単位：円

収 入 の 部	金 額	摘 要
	円	
繰 越 金	5,713,909	前年度より繰越
岩手県医師会	842,649	乳児等医療費助成事業事務交付金他
県医師信用組合	119,000	第23期事務委託費
県医師国保組合	58,500	支部交付金
いわて医師会	80,000	平成5年度支部交付金
盛岡市医師会	50,000	掛かり付け医補助金
雑 収 入	185,4105	預金利息
	42,000	玉山村県民健康講座助成金他
合 計	7,091,468	

単位：円

支 出 の 部	金 額	摘 要
	円	
岩手医学会	260,000	平成5年度会費 @ 4,000 × 65人
東北銀行	721	振込手数料 (岩手医学会へ)
学校保健会	100,000	岩手郡地区平成5年度補助金
合 計	454,721	
次期繰越金	6,730,747	収入 7,091,468 - 支出 360,721

特別講演



郷土史研究家
芳 門 申 麓 氏

霊 峰 へ の 誘 い

講師 郷土史研究家 芳 門 申 麓

座長 岩手郡医師会会長 高 橋 牧之介

講師紹介：本名 芳門留次郎 1920年下閉伊郡川井村生まれ

仙台通信講習所卒、陸中川内郵便局長、川井村郷土誌編集委員会
専門委員、県立博物館調査委員、川井村村政治功労者、川井村文
化財調査委員長、川井村社会教育委員

近頃、早池峰山信仰の軌跡を求めて現地を訪れる若い人達がめっきり多くなってきた。早池峰山は古くは「あずまねだけ」（東根岳、東子岳、東岳）と呼ばれ、各掛口の開山由来にも早池峰山の山霊を東岳明神あるいは東根岳明神と崇めたと伝えられている。「東」とは、最も早く開けた北上川流域から云い起こされたものといえよう。アイヌ語源説では「東方の脚」の意味の「パヤチニカ」「パハヤチニカ」から早池峰山の地名になったと説明されている。

私は、早池峰山の由緒をたずねて歩くうち、過疎に悩む小さな集落の人達が心をこめて古社や郷土芸能を守っている姿にふれ、改めて感動した。この小さな輪がもっとも世の中に広まり、受け入れられることを心から願わずにはいられない。

草鞋を履き、我が家からてくてく歩き、垢離取場で水垢離を浴びて登頂し、翌朝、美しいご来光を初めて拝んでから六十四年がたち、連峰を訪れた回数もいつの間にか三桁になった。今も年に数回、瘦軀瓢々と御山を徘徊できるのは、心と体を鍛えてくれた故郷の御山、早池峰山のお蔭と深く感謝している。

本日の話の範囲は旧村の上閉伊郡附馬牛

村、稗貫郡内川目村、下閉伊郡門馬村および小国村を主とし、それに山麓の新市町村内の早池峰山にゆかりのある地についてふれることにする。遠野口、大迫口、門馬口、江繋口のそれぞれについて、つとめて均衡を失しないよう意をもちいてのべるのでご了解賜りたい。

早池峰山信仰碑については、遠野市、大迫町、川井村にとめるつもりでいたが、調べていくうちに信仰圏は次第に広がり、県南、果ては宮城県北地方にまで及ぶことになり、走行キロも二万キロに達し、ついには走行中古木の切り株までが古碑に見えるようになり「病こうもうに入」ったと観念して、取材については各地の教育委員会のお世話になることにした。

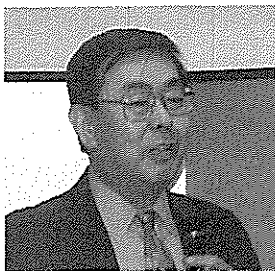
早池峰山登拝のメインルート・ファイブ

- 1 遠野郷から早池峰山へ
- 2 大迫郷から早池峰山へ
- 3 門馬郷から早池峰山へ
- 4 江繋郷から早池峰山へ
- 5 小田越コースと山頂由緒めぐり

早池峰山探勝のガイドと早池峰山の高山植物をスライドを用いて解説した。

(文責 高橋牧)

学術講演

岩手医大教授
谷口 繁 先生

腎臓病について

講師 岩手医大高次救急センター教授 谷口 繁

座長 岩手郡医師会副会長 西島 康之

講師紹介：昭和10年生まれで、昭和35年岩手医大を卒業し、昭和40年岩手医大大学院を卒業したあと、岩手医大小児科教室にて研鑽をつまれ、平成元年岩手医大高次救急センター教授となられた。その間学内では岩手医大圭陵会幹事長として全国各地の会員への学内紹介など活躍しています。また岩手県医師会常任理事として、

現在は勤務医部会長として活動されていることは皆様既に承知のことと思います。研究専門領域は腎臓病であり、本日はその一端として各種腎臓疾患の概念と治療方針について詳細にお話しいただいた。

要旨：急性糸球体腎炎は主に幼児に発症するが成人にも発症することがある。原因の殆どは咽頭、扁桃又は皮膚へのA群β溶連菌の感染である。

慢性糸球体腎炎は臨床概念で、急性腎炎後の或いは偶然発見された異常尿所見が1年以上持続するものとされている。

ネフローゼ症候群は1つの臨床的疾患単位であって、原因疾患が何であってても一定の臨床的条件を満たせば本症候群と診断してもよい。診断基準は（厚生省調査研究班）

- ① 1日3.5g以上の蛋白尿の持続
- ② 低蛋白血症（総蛋白量6.0g/100ml以下、アルブミンなら3.0g/100ml以下）の存在
- ③ 高脂血症（総コレステロール量250mg/100ml以上）を認める
- ④ 浮腫

本症候群でのステロイド剤の使い方は重要であり、長期間大量投与が原則で、治療方法としては、初期治療と維持療法に分かれ

る。

起立性蛋白尿は、安静横臥時に陰性で、起立後又は前弯負荷後に陽性となる蛋白尿で集団検尿で、学童、学生では8～10%、成人では数%の出現率といわれる。殆どは予後良好で、特別な治療は行わない。成人に達するまでは定期的に検尿などを行うことが望ましい。

その他IgA腎症など電顕像や蛍光抗体法によるきれいなスライド所見より、形態的に特徴のあるものなど多数紹介された。

（文責 M. S）

第1回岩手郡医師会ゴルフ同好会コンペ

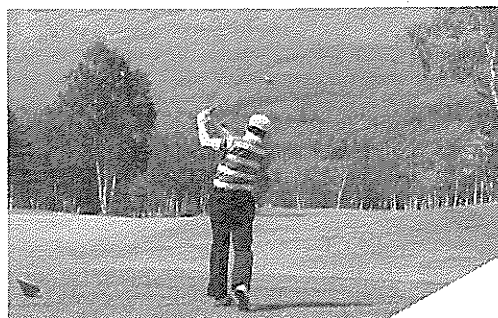
新緑の美しい時節となり、ここに郡内会員のゴルフを愛好する方々の親睦を兼ねた集いが、安比高原ゴルフクラブにおいて5月29日（日）好天に恵まれて開催されました。この会には高橋郡医会長より「会長杯」が寄贈され、会員13名と協賛製薬会社及び卸問屋の方々共々和気あいあいのうちに行われました。

郡内会員にはシングルプレーヤーが数名いるが、今回はオフィシャルハンディではなく、ダブルペリア方式（隠しホールを設定してハンディを決める方法）を採用したため、会員では八角正司先生のネット73.4の準優勝が最高位であった。尚、優勝したのはK社の平石弘八氏のネット71.8であった。

5月にしては最高の好天のもと高原のさわやかな風と共に、周囲の白樺林の景色が緑の芝生と相まって気持ちのいい汗をかいいた一日であった。

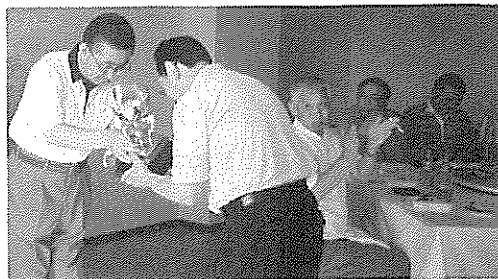
と き 平成6年5月29日（日）

ところ 安比高原ゴルフクラブ



白樺のむこうにナイスショット（及川先生）

次回は会場を南部富士C. C.に移して、今秋頃に開催予定とのこと。ゴルフを始めて間もない方、これから始めようとしている方々など多数の初心者も大歓迎しますので大いに参加して下さい。

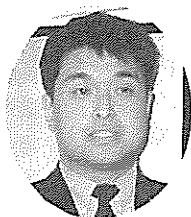


優勝盃授与

成績表

順位	氏名	岩手山	十和田	TOTAL	GROSS	HDCP	NET	
1	平石 弘八	45	40	85	85.0	13.2	71.8	優勝 B G
2	石角 正司	47	48	95	95.0	21.6	73.4	準優勝
3	奥瀬 徳弥	45	44	89	89.0	15.6	73.4	
4	佐藤 尚孝	52	42	94	94.0	20.4	73.6	
5	土谷 正彦	48	45	93	93.0	19.2	73.8	
6	坂井 博毅	42	44	86	86.0	12.0	74.0	
7	久保谷 康夫	46	40	86	86.0	10.8	75.2	
8	井上 真宏	48	48	96	96.0	20.4	75.6	
9	嶋田 信彦	44	47	91	91.0	13.2	77.8	
10	上田 靖彦	50	46	96	96.0	18.0	78.0	
11	及川 忠一	53	47	100	100.0	21.6	78.4	
12	渡辺 壮一	55	57	112	112.0	33.6	78.4	
13	佐藤 郁郎	56	48	104	104.0	25.2	78.8	
14	佐藤 邦秀	51	50	101	101.0	21.6	79.4	
15	永山 康之	50	50	100	100.0	19.2	80.8	
16	西島 康之	64	55	119	119.0	33.6	85.4	
17	高橋 牧之介	64	55	119	119.0	32.4	86.6	
18	瓜田 明義	61	61	122	122.0	34.8	87.2	B. B
19	倉田 矩正	58	53	111	111.0	20.4	90.6	B. M

新入会員



○氏 名：佐 藤 一
(安代町立田山診療所)

年 齢：28歳
(1965. 8. 2)

出身地：気仙郡住田町世
田米

出 身 校：世田米中学校→盛岡一高→自
治医科大学

専門、診療科：

岩手医大第一外科に籍を置かせて頂い
ております。

一般消化器外科を志していますが、田
山診療所勤務中は何にでもチャレンジ
していこうと思っています。

勤 務 期 間：平成6年4月から一応3年間
の予定です。

趣 味：スポーツ（ラグビー、野球、
スキーなど）、ドライブ

ひとこと：

若輩者ですが先輩方の迷惑にならぬよ
う努めていきたいと思っておりますのでよ
しくお願いします。

実家を出て14年にもなりますが、独
身の不便さを田山に来て初めて感じて
いる今日この頃です。

○氏 名：鈴 木 順
(葛巻町立葛巻病院)

年 齢：32歳

出 身 地：水沢市

出 身 校：岩手医大

専門、診療科：内科（呼吸器）

勤 務 期 間：H5. 4月より葛巻病院内科
勤務（非常勤）

H6. 4月より葛巻病院内科
勤務（常勤）

趣 味：ピアノ、エレクトーン、ピア
ノ演奏

現在は葛巻でつりに夢中

ひとこと：

葛巻でたつぷりとout door sportsを
楽しもうと思っています。

○氏 名：秋 元 義 弘
(葛巻町立葛巻病院)

年 齢：昭和39年9月29日生 29歳

出 身 地：岩手県二戸市出身

出 身 校：平成2年3月自治医科大学卒

専門、診療科：産科婦人科

勤 務 期 間：平成2年6月より岩手県立中
央病院勤務

平成4年4月より岩手県立福岡病院勤務

平成6年4月より国保葛巻病院勤務

趣 味：テニス、スキーその他野球と
ゴルフを除くスポーツ！

パソコン（マッキントッシュの
み）

ひとこと：

野球とゴルフは一度もしたことがあり
ませんで、当地で鍛えていただこうと
考えております。「マック」に関しま
しては若干の知識がありますので興味
のある方はいつでも御連絡下さい。若
輩者ですが宜しく御指導下さいませよ
うお願い申し上げます。

○氏 名：加 藤 隆 幸
(西根町立西根病院)

年 齢：33歳

出身地：岩手県紫波町

出身校：

岩手医大（昭和63年卒）、

同大学院（平成5年卒）

診療科目：内科



学術

岩手町における大腸集団検診の現況

—— 4年目を迎えて ——

岩手県立沼宮内病院 内科

渡辺 恒雄

生田 孝雄

岩手県立沼宮内病院 外科

佐藤 敏通

1 はじめに

近年食生活の欧米化とともに、我が国における大腸癌の増加には目をみはるものがある。その罹病率は、死亡率の上昇からも西暦2000年には、胃癌との比が逆転するであろうとさえいわれており、さらなる大腸集団検診（以下大腸集検）の徹底に重要性を喚起するものとなっている。岩手町においては、厚生省老人保健法調査事業として平成2年度より大腸集検を実施し、今年で4年目を迎える。そこで当町における3年間の大腸集検の実施状況とその結果について報告する。

2 対象及び方法

検診の申し込み及び検体容器の配布と回収には、町内各地域の保健推進委員の方々により協力していただき、陽性者への結果説明及び2次検診の説明には、当院医師と看護婦及び岩手町の保健婦があたった。

対象は岩手町内の40歳以上の全住民で、申し込み方式により行った。一次スクリーニングとしては、無制限食下での便潜血反応を、平成2年度はRPHA法（逆受身赤血球凝集反応）の2回法、平成3年度以降はラテックス法の2回法のいずれも免疫法で行い、2回のうち1回以上陽性であった者に対して当院においてtotal colonoscopyにて2次検診を施行した。colonoscopyにて回盲部まで到達できなかった症例には後日注腸検査を行った。

3 結 果

一次検診受診者数は3年間で延べ8,087人で年度毎に受診率の向上が認められ、平均受

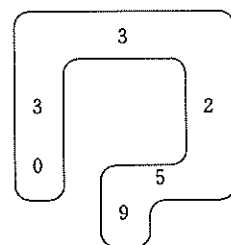
診率33.7%であった。

要精検者数は各年度それぞれ151人、166人、113人と延べ430人（平均陽性率5.3%）で、うち精検受診者数はそれぞれ119人、147人、91人の延べ357人（平均受診率83%）であった。

精検受診者のうち有所見者数は127人（有所見率1.6%）で、その内訳は、大腸ポリープが平成2年度33例、3年度41例、4年度26例の計100例（1.2%）発見され、大腸癌は平成2年度5例5病変、3年度12例13病変、4年度4例4病変の計21例（0.26%）22病変が発見された。

集検発見大腸癌症例の平均年齢は64.1±7.7歳（Mean±SD）で13対8で男性が多く、部位的には、直腸9例（40.9%）、S状結腸5例（22.7%）、下行結腸2例（9.1%）、横行結腸3例（13.6%）、上行結腸3例（13.6%）と直腸及びS状結腸に多く発見された。進行度は全例がDukes分類で、Dukes AからBであった。

症例数 21例 22病変
年 齢 64.1±7.7歳
(Mean±SD)
性 比 M:F=13:8
〈Dukes分類〉
Dukes A 16例17病変
(うち早期癌6例7病変)
Dukes B 5例 5病変
Dukes C 0例



部位別頻度

発見された大腸ポリープに対しては、ポリープの形状をもつ早期大腸癌症状をふくめて、3年間で52人88病変を当科にて内視鏡的に摘除した。摘除したポリープは84.1%が腺腫、8.0%がm癌（腺腫内癌Cancer in adeno-

ma) 及びsm癌であった。ただしsm癌に対しては外科的に追加切除を行った。その他非腫瘍性ポリープは、過形成性ポリープ、炎症性ポリープ、カルチノイド、正常粘膜であった。

4 考 察

一次検診受診者数は平成2年度2,192人、3年度2,808人、4年度3,087人と年度毎に受診率の向上が認められ、年代別では各年度ともに60歳代をピークに50歳代、70歳代、40歳代、80歳以上の順で、特に70歳代の受診率は、40歳代の受診率とほぼ同じであり、当町での高齢者数が多いという人口比率の影響もあらうが、高齢者の大腸癌への感心の高さを示しているものと思われた。

3年間の大腸癌発見率は平均0.26%で、岩手県対ガン協会が昭和59年から平成1年までに県内2市9町5事業所で44,715人に対して行った大腸集検の大腸癌発見率0.17%よりやや高めの結果であったが、その他全国的に各地区、各事業所の結果と比較すると、報告により多少の差はあるものの、当町での大腸癌発見率は、ほぼ平均的な範囲内であると思われた。

3年間で発見された大腸癌例は、ほぼ全例当院において外科的手術あるいは内視鏡的摘除をうけており、特に外科的手術を受けている症例は全例AからBと比較的早期の症例で、これらの症例は、その後管理検診として経過を追っているが、現在のところ再発例や死亡例は認められていない、また発見されたポリープ例は積極的に内視鏡的摘除を行っており、その後も大腸癌例と同様に管理検診として経過観察している。

一方で最近3年間の岩手町における大腸癌死亡者の過去の集検受診状況を見てみると12例中11例が検診非受診者という結果であり、

集検発見大腸癌例に対して、検診非受診大腸癌例は格段に予後が不良である。

最近大腸集検において問題となっているものの一つに偽陰性例の問題がある。中塚らは偽陰性例を、便潜血反応陰性でその一年以内に進行大腸癌と診断されたもの、と定義している。これに従うと、当町の検診開始翌年から検診発見大腸癌例16例のうち5例(31.3%)は偽陰性例であった。

以上より全国的に増え続ける大腸癌死亡者数の減少には、大腸集検は特にその逐年検診において有効であり、町民に対する啓蒙活動が今後ますます重要になってくるであろうと思われる。

5 結 語

岩手町における3年間にわたる大腸集検により次の結果を得た。

- 1) 3年間で延べ8,087人が一次スクリーニングを受け、陽性者430人(5.3%)が要精検となり、357人(4.4%)が二次検診を受診した。
- 2) その結果大腸癌21例(0.26%)、大腸ポリープ100例(1.24%)、胃癌1例、大腸カルチノイド2例、その他3例が発見された。
- 3) 検診発見大腸癌例は全例Dukes AからDukes Bであり、検診非受診大腸癌に比し予後良好なものが多かった。
- 4) 大腸癌死亡者減少には大腸集検の逐年検診が重要な位置を占めているものと思われた。

以上本論文要旨は平成5年9月4日第25回岩手県立病院学会において発表した抜粋である。

おらほの先生

私たちの院長は、「八角正司先生」です。ちょっと珍しい名字ですが、地域の皆さんにはタイトル通りに「おらほの先生」と呼ばれて親しまれております。「ションッあん」と、笑顔を向けるお年寄りも少なくありません。

先生の毎日はとても忙しく、名前の“やすみ”とは反対に、白衣を脱がれる時がないのではないかしら（もしかしたら白衣のままお休みになっているかも……）と、思われる程です。しかし、どんなにお疲れになっても常に「医は心」で、疲れた様子など少しもみせず、にこやかに患者さんを診察しています。患者さんに対しての気配り、心配りは、職員の私たちなど、到底かないません。こんな先生ですから、小さい子供からお年寄りまで多くの患者さんに厚く信頼されているのです。

地域医療と、老人医療をライフワークとする先生は、「玉山村方式」と呼ばれる独自の心臓検診の確立や、在宅老人の訪問看護の実施、老人健康保健施設の設立など、地域に密着した医療活動を行っています。現在でこそ道路が整備され、交通期間が発達して便利になりましたが、玉山村は広いうえに山あいに民家が点在しています。往診のための移動も、昔はオートバイに乗りボコボコ道で、おしりの痛い思いをされたとか。笑いながらこんな懐かしい話をされる先生は、本当に仕事を楽しんでいるのです。（先生のオートバイにのる姿、想像できませんので、ぜひ実演をお願いします。）

仕事以外の趣味といえば、なんと言っても、ホールインワン歴1回のゴルフでしょうか。携帯電話のベルを気にしながらのプレーはスコアにひびくと思いますが、シン

玉山村 八角病院の巻

グルプレーヤーめざして頑張っていたきたいと思います。また、野球観戦もお好きで、昨年夏の高校野球県大会では、盛岡一高エースのご長男を応援に、早朝から患者さんを診ては球場に足を運ばれました。自家製の枝豆をおつまみにビールでナイター観戦も、これからの季節、先生の日課となるでしょう。

もう一つ、先生の十八番の愛唱歌をご紹介します。職員の誰もが知っていて、ほとんど病院歌となっている歌、それが「琵琶湖周航の歌」です。忘年会、夕食会の時には必ず歌われ、合唱となります。ゆったりとおおらかなこの曲を聞いていると、忙しい毎日の生活があらわれるようです。

今年、息子さんも医学の道を継がれ、岩手医大に進まれました。何年後かには先生と机を並べられ、患者さんを診察されると思うととても頼もしい限りです。どうぞお身体を大切にして、これからも多くの患者さんのために、ますます頑張ってくださいと思います。



今年5月の夕食会で「琵琶湖周航の歌」を歌われる先生。右から二番目が院長先生です。（右端は吉島先生、左から2人目は三善先生）

随 想

**「貴方のウンチは水に浮かぶ？
浮かばないと貴方は野菜が不足しています」**

雫石町 高 橋 孝

「先生、昨日の新聞見たが？熱さます使うと風邪ながびぐド、オラつかわねがった」「ウダドモ熱ア38度以上あって寒気があったり、体が痛がったりして、マンマケネどぎは、普通の量の半分の坐薬だから、前にもつかったごどあるがらつかった方が楽だとおもうよ。」平成6年5月24日の岩手日報紙上に、「解熱剤は風邪に逆効果」という記事がのったときの患者の話ですが、確かに解熱剤の乱用は、病気の経過を診断するために、又解熱剤を使わないで治療するとよいと言われる感染症もあります。風邪に使うと、治癒までの期間が、一日以上遅れると言うデータを大阪市立大学医学部の宮田講師らが発表したようです。又最近ハウレンソウを、食べると、なかに含まれている蓚酸によって貧血が増悪するとの記事もありました。ハウレンソウは、一年通して収穫される緑色野菜で、「野菜を食べなさい」というときの主たるもので、私も、鉄分は含まれているが、割に吸収されにくいぐらいは知っていましたが、貧血を悪くすることまでは知りませんでした。さて、平成3年の新聞に、「食べ物の個性勉強を」と題して血圧の高い人はアスパラガスや牛肉、貝類、芝エビ、低い人はトマトやハウレンソウがいい、更に大きい字のタイトルで「トマトは血圧を上昇」とある。血管はノルエピネフィリンという物質によって収縮することが知られている。実験は、食品のエキスがこの物質に

どのように作用するかをみた。トマトは何も加えない場合に比べて3倍以上もノルエピネフィリンの血管収縮機能を高め、“血圧上昇食品”と判定された。同様にハウレンソウ、ショウガ、ゴマも血圧を上昇し、グリーンアスパラと牛肉は降圧作用があると報道されている。農村では、トマト、ハウレンソウなど毎日のように食卓にのっても、グリーンアスパラ、牛肉は商品価値が高く自分達の口には中々入らないのでは？と考えて、この記事について発表者の愛媛大学医学部生化学教室の奥田教授に紹介してみましたら、いまだ人体については検討していないとの返事でした。新聞は話題提供としてそれなりの意義があるとおもいますが、タイトルのみ、或は、発表者の意見をきかない患者や、読者は記事そのまま理解することが多い、表題は私の所の患者用のトイレの戸に貼ってある自書のパスターですが、自分は酒をあびるくらい飲んでも、患者には食事にうるさいので、特に食べ物の記事については、発表者にデータをお願いして、真意を確かめることにしている。「解熱剤は風邪に逆効果」についても、大阪市立大学医学部に問い合わせ中ですが……。

随 想

玉川温泉の一日

西根町 嶋 信

5月のゴールデンウィークの連休の一日家内と一緒に八幡平アスピーテラインへドライブに出かけた。この時期八幡平はまだまだ積雪も多く、4月の後半ようやく有料道路の除雪作業も終り、観光客の訪れを待つ時期でもあるが、今までも何回か山頂には行ったことがあるが、今回は山頂を越えて秋田県田沢湖方面へと足を延ばしてみようと思った。山頂までは頂上に近づくにつれて、いわゆるまさしく「雪の回廊」（道路の両脇がバスもかくれるくらいの除雪した雪の壁）であり、車窓には冷っとした冷気を感じながら登った。頂上駐車場付近は連休のためかなりの混雑であり、ドライブインで暫時休憩をとって、秋田名物味噌付キリタンポを食べて、外を見渡すと樹々は霧氷となり、ガスがかかり、これ以上山頂から秋田方面へ下りるのは危険かなと案内の人に尋ねたところ、下の方はまたこことは違うと思うとの返事だったので下りることにした。しばらく秋田方面へおると霧は晴れ、素晴らしい視界が開けてきた。途中また一休みしながら玉川温泉まで足を延ばすことにした。ここには初めて訪れたが、いかにも山あいの湯治場といった感じで、年令的にも高齢の方々が周囲を散策していた。温泉旅館、湯治宿とあり、また一般観光客の休憩場、大浴場があり、ここで一風呂入ることにした。

老若家族連れ、皆さんゆっくりと湯につかったり、「蒸し風呂」に入ったり、「うたれ湯」にうたれたり、時には「水風呂」に入ったり、

また女風呂の仕切もあるが、出入り自由で時に男性の入っている風呂場に来て女性も同じようにいろいろの風呂につかっている風景がみられたのにはびっくりした。但し、若い女性はいない。やはり中高年令婦人である。また外の周囲の付近一帯の小高い丘の上などを見渡すと、毛布とかござをもった年配の方々が行ったり来たりするので何をするのか気になってつい一緒について行ってみると、そこは所々で湯煙を上げている「天然の湧泉」であり、テントを張って直射日光を避けながら、砂地を見つけては一日中でも横たわって休んでいられるという「露天風呂」でした。至るところで数人づつのゴロ寝姿がみられた。未知らぬ人同志が世間話をしながら仲よしになったりするのでしょう。こんな風景をみていると、一日中こんなところでゆっくりできたら幸せだなあと痛感した楽しい玉川温泉での一日であった。

それにしても道路沿いから玉川温泉旅館までの関連道路はマイカーで一ぱいであり、自炊湯治客と思われる人々も多数おり、一般観光客も大浴場は大変な人混みであった。

この先、玉川温泉を越えて田沢湖までの予定であったが、このままここから引き返すことにした。

次回もぶらり、ゆっくりとドライブを楽しんでみたいと思う。

岩手郡医師会理事会

日 時：平成6年4月6日（水）午後6：30

場 所：盛岡市ホテル・ニューカリーナ

出席者：高橋（牧）、西島、上田、八角、佐々木、坂井、
上原、嶋、篠村、岡本、及川、高橋（孝）、根本

- | | |
|--|------------------------------------|
| (1) 開会の挨拶 | (8月28日 於遠野市) |
| (2) 役員の業務分担指名について | (10) 岩手郡医師会臨時総会・忘年会について |
| (3) 平成6年度の行事予定について | (12月3日) |
| (4) 会員の入会退会について | (11) 役員新年会（平成7年1月下旬） |
| (5) 生涯教育の報告について | (12) 岩手郡医師会臨時総会について（平成7年2月下旬か3月上旬） |
| (6) 平成6年度岩手郡医師会定時総会について（6月11日） | (13) 死亡診断書の改定について（95'1／1より実施） |
| (7) 第46回岩手県医師会総会及び第92回岩手医学会春季総会について（6月26日 於花巻温泉） | (14) 岩手郡医師会親睦ゴルフ大会について（春、秋に行う） |
| (8) 岩手郡医師会体育大会について（7月11日か24日） | (15) その他 |
| (9) 岩手県医師会親睦野球大会について | (16) 漢方薬の説明会（カネボウ薬品） |
| | (17) 懇親会 |

岩手郡医師会役員会

日 時：平成6年6月1日 午後6：00

場 所：ホテルロイヤル盛岡

出席者：高橋牧之介、高橋孝、上田靖彦、西島康之、八角正司、
根本忠夫、坂井博毅、佐々木久夫、嶋信、上原充郎、篠村達雅、
及川忠人、岡本彰、和田栄吉、高橋克郎、佐藤郁郎

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1) 通常総会開催について | ハ 平成5年度休祭日当番医決算書の承認について |
| (1) 佐藤郁郎議長の件 | ニ 平成5年度特別会計決算書の承認について |
| (2) 各部会の委員・幹事よりの報告提案事項について | (4) 特別講演 |
| (3) 平成5年度岩手郡医師会会計決算書の承認について | (1) 霊峰への誘い |
| イ 監査報告 | 郷土史研究家 芳門申麓 先生 |
| ロ 平成5年度一般会計決算書の承認について | (2) 腎臓病について |
| | 岩手医大教授 谷口 繁 先生 |

- (5) 懇親会について
- 2) 医師会行事予定について
- (1) 岩手県心肺蘇生法普及事業
- (2) いわて医報 ぜんとうよう・こうとう
よう出版記念会 6月11日 於ホテル東
日本
- (3) 岩手県医師会総会・岩手医学会 6月
26日 於花巻温泉
- (4) 平成6年度健康スポーツ医学講習会の
開催
- (5) 医師国保による体育大会の開催 7月

- 23日(土)
- (6) 県医師会親睦野球大会 8月28日 於
遠野市
- (7) 救急医療週間 9月
- (8) 医師連盟 衆議院議員選挙の立候補者
推薦について
- (9) 会員履歴ガードについて
- (10) その他
- 3) 会員の入会について
- 4) その他

編 集

●本年のチャグチャグ馬コは、青空が広がる好天に恵まれ、96頭の装束馬が滝沢村蒼前神社より盛岡八幡宮までの行進であった。例年沿道の見物客（今年は約55万人といわれる）は、各地より多数あつまると感心する。

●平成6年度郡医師会通常総会は、6月11日盛岡市ホテルアネックスで行われ、平成5年度の一般会計、休祭日当番医、特別会計の各決算書が承認された。そのあと行われた講演会は、下閉伊郡川井村出身の郷土史研究家芳門申麓氏の「霊峰への誘い」と題して、早池峰山（1917メートル、遠野市、大迫町、川井村に跨る霊峰として知られる）に伝わる伝説や高山植物の宝庫として知られる植物群の数々を紹介してくれた。翌6月12日は夏山シーズンの幕開けともいわれる山開きの日でもあり、県内外より多数の登山者で賑わった。そのあと行われた学術講演では、岩手医大救急センター教授谷口繁先生の「腎臓病について」のお話であり、腎疾患の各種について詳細に解説された。

●5月29日安比高原ゴルフクラブにおいて、郡内会員ゴルフ同好の集いが行われた。会長自ら「郡医会長杯」を寄贈されての参加であり、今後とも参加者が増え永く継続されるこ

後 記

とを期待する。

●例年1月～2月初旬にかけて開催される県民健康講座は、本年度は雫石町での開催予定であるが、今回は県民の誰もが心臓マッサージや人工呼吸法などの救命措置ができるように「県民自身による心肺蘇生法」普及事業の一環として「心肺蘇生法」がカリキュラムに取り込まれることになった。雫石町地区の各先生方よろしく願います。

●岩手町の大腸集団検診は着々と成果をあげ、3年間の成績をここに報告し、参考にいただければ幸いである。と関係者の一人沼宮内病院の生田孝雄先生は語っていた。

●「おらほの先生」は玉山村の八角正司先生について職員の方々より報告があり、先生の人柄がにじみ出ていてとても微笑しいものと思います。どうもありがとうございます。

●最近使いきれないワープロで文章を書いたという高橋孝先生は、時の話題として皆さんの参考になればとの願いから毎回いろいろ提供していただきどうもありがとうございます。感謝申し上げます。

(M. S記)